

大ナイゴ沢復旧対策に関する検討委員会

【第2回検討委員会 概要】

日時: 令和4年8月2日(火)13:00~14:30

Web形式

議事進行内容

- (1) 開会
- (2) 挨拶
関東森林管理局 計画保全部 治山課長
- (3) 出席者紹介
- (4) 座長選任
- (5) 座長挨拶
- (6) 議事
 1. 第1回検討委員会の指摘と対応
 2. 復旧対策の基本方針
 3. 施設等整備計画
 4. 討議及び各位委員からの意見
- (7) 閉会

検討会出席者 別紙1_出席者名簿のとおり



検討委員会の状況

【委員からの意見】

- ・ 対象地では施工等が難しいため、土砂発生源の対策をしないことは了解できるが、一方で最大土砂想定量や活動性(具体的には活動範囲、すべり面深度、活動量、安全率の変化、すべり面強度の変化等)は把握しておくべきである。土砂発生源の対策ができない施工上・安全上の課題を報告書には明記しておいてほしい。
- ・ UAV 測量では、崩壊など規模が大きい現象は把握できるが、地すべりの監視においては、より細かい挙動の把握も必要である。
- ・ 地すべり活動の状況次第では、溶結凝灰岩の上部にある流紋岩も不安定化する可能性があるので、地すべり部の背後も含めた地すべり動態監視が必要である。
- ・ 溪間工主体の計画であっても、押し出し域から流出が想定される不安定土砂を抑制すべき土砂量として計上し、整備率についても再度、算出すべきである。また、この場合、将来的な溪間工の追加計画の必要性についても検討する必要がある。床固工の検討では、土石流を想定した研究結果を参考にしているが、対象溪流は掃流区間であり、土砂の粒径は細粒分を多く含むため、適用上問題ないか注意したほうがよい。